



山にみどり、川に清流、谷に風、空に星、自然と和して発展するまち、人のくらし、みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

手をむすんで

H25.5

つなぐ・伝える・行動する を目指して

講演会、活動発表、展示、抽選会など多彩企画で大勢の団体、市民が参加し交流

ながの環境団体大集合2013 開催



盛り上がった抽選会



受付

ながの環境パートナーシップ会議大会「ながの環境団体大集合～つなぐ・伝える・行動する～」が平成25（2013）年2月17日、長野市生涯学習センターで開催されました。今年度は昨年の設立10周年記念事業「ながの環境団体大集合～つなぐ・つながる～」をさらに発展させ、市内の地域・環境団体・企業などと連携を図り、相互の情報交換とより良い地域づくりの検討を行いました。

参加者は一般・団体等合わせて約130名。

今回の大会は、基調講演、分科会、交流・意見交換会、展示と4つの構成で行われました。

- ・基調講演は、会員から要望の多かった環境学者の飯田哲也氏をお招きして「地域自立のエネルギー革命へーそれでも脱原発・エネルギーシフトは進む」の演題でお話いただきました。
- ・分科会は、「I 自然と学習」と「II 街づくりと資源」の2つに分かれて活動発表がありました。
- ・交流・意見交換会は展示パネル前と各会場で実施しました。

最後は今回初めて企画したエコ賞品が当たる抽選会、参加者全員和やかな雰囲気で大大会が終了しました。

(* 2・3 ページに内容掲載)



書籍販売コーナー、サインをされる先生

飯田哲也氏基調講演

環境学者で認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也さんは、我が国の原子力発電代替となる自然エネルギーの現状や可能性、持続可能なエネルギーへのシフトについて、パワーポイントを使いながら基調講演をされました。

飯田さんは、「日本は3・11の前に戻るとは絶対ないだろう」といい、国内原発施設の危険度ランキングから即時廃炉にすべき24基を示し、「危険な原発から廃炉にすべき」と指摘。

安倍政権の「原発ゼロを見直す」政策を警戒視し、「日本は世界で最も知識と関心が高い」として、原発事故被害総額や保険料の多さや「儲けは電力会社。リスクは国民という不公平なギャンブルをさせる」(ジョセフ・E・スティグリッツ教授)との言葉、核のゴミ問題を提示し、原発依存の限界に言及しました。

その上で、「回らない風車 バイオマス日本はすべて失敗 水がないのに小水力実験」と、国内が自然エネルギーを採用、導入しながら、うまくいっていない現実にあふれつつ、国際的な視野から成功例やデータなどを紹介し、日



写真は通称「研究所長」飯田哲也氏

地域自立のエネルギー革命へ それでも脱原発・エネルギーシフトは進む

本がどう活路を見いだせるかのヒントを探りました。

『世界自然エネルギー未来白書』(2013)から、IAEAのデータを引用し、『世界の原子力(予測と現実)』と『ドイツの自然エネルギー(予測と現実)』とのグラフを歴史的な推移を根拠に対比しながら、「原子力は過大評価で自然エネルギーは過小評価をされている」と指摘。

いまは、文明的な転換点と位置付け、これからのエネルギー事情を人類史上『第4の革命』ととらえ、それは地域社会参加から合意形成をふまえ

た設備投資や施設整備が求められると呼びかけました。

先進好事例としては、北海道浜頓町の風力発電「はまかぜちゃん」事業の出資の仕組みや、自然エネルギー100%供給を島民が設備オーナーシップを支えているデンマークのサムソ島などを紹介し、便益を地域へ還元することや、土地利用計画への十分な配慮などのポイントを説明しました。

コスト面からは全量買い取り制度の負担と便益のグラフから自然エネルギーシェアが増加していく将来に向け、「当面の負担は将来への大きな投資となる」と

アプロウチ。自然エネルギーの環境整備については、過去(1980)の大規模集中体制(大型火力発電)から、現在(2012)の地域分散システム(コージェネ、風力発電)とを比較して、流れの変化と広がり重ねて確認。需要と供給関係から、今後、「中央集権→地域分散」「経済成長→充足・公正・幸福」といった大量生産型モノ社会から創造的な知識社会への転換の中で、地域エネルギーが欠かせず、重視していく流れを展望しました。

(報告 高島理事)

もっと大勢の市民の参加を

参加者アンケート結果より

アンケート配布数83枚回収率46%

参加者の世代

60代以上で65%、20・30代で10%

参加者の所属

一般30%、NPO・環境団体22%、会員48%

会員以外に対してP会議の認知度

知っていた70%

知らない10%

全体について

良い19%

普通15%

講演について

良い33%

普通4%

分科会について

良い16%

普通10%

感想等

展 示 各団体の展示が参考になり、参加して良かった。

講演会 良く理解でき、自分の生活環境を考え直すことが出来た。実例があり勉強になった。

分科会 各団体の活動内容が良くなった。

交流会 時間が少なくゆとりが欲しい。

全体 大勢の市民に聞いてもらいたい。もっと大きくなうねりになるといい。

情報交換の場作りプラットフォームづくりを



分科会・意見交換・交流会



分科会では、「自然と環境学習」「街づくりと資源」の2つに分かれ、それぞれ7団体・P会議チーム計14の活動発表。今回は地域の自治会の参加もあり、地域との協働のあり方など「つながり」というテーマで、1年間を通して各団体がどのように他と協働をしたかなど熱く語られました。

意見交換・交流は展示会場のパネルに、各団体に支援できることは青の付箋を、支援して欲しいことは黄色の付箋を貼り情報交換をしました。付箋を使っての情報交換は、参加者に十分理解されない面もありましたが、他団体の展示を熱心に見て、「つなぐ・つながる」ための情報収集や意見交換を行うことが出来ました。

活動発表団体・チーム

自然・環境学習

参加者30名

【コーディネーター
市民の森づくり 堀池】



- ・長野市環境政策課
- ・レジ袋削減を考える会ながの
- ・長野都市ガス
- ・健康な未来を考える会sowing.net
- ・飯綱高原よつこらしよ
- ・Pこどもの環境学習
- ・P市民の森づくり

まちづくり・資源

参加者50名

【コーディネーター 弓場理事】



- ・川中島今井団地
- ・abn長野朝日放送
- ・NPO法人みどりの市民
- ・P光害対策チーム
- ・P水環境保全
- ・P生ごみ減量・再利用促進チーム
- ・P太陽エネルギー普及促進チーム

展示

ホワイエと大学
習室の2か所で、
17団体・チーム
の活動展示

展示団体・チーム

- ・長野都市ガス(株)・市生活環境課
- ・みどりの市民
- ・飯綱高原よつこらしよ
- ・クリーン長野運動推進本部
- ・健康な未来を考える会
- ・アルプスビューフォーラム
- ・長野市地球温暖化
防止活動推進センター
- ・長野ソフトエネルギー資料室
- ・レジ袋削減を考える会ながの
- ・Pレジ袋使用削減・P光害対策
- ・P市民の森づくり
- ・P生ごみ減量・再利用促進
- ・P太陽エネルギー普及促進
- ・Pながのカーボンオフセット
- ・Pウエザーステーション

私の欲しい情報は
あるかな!



リユース食器!
どこへ連絡すればいいの?



国際ユース環境会議、
世界と繋がりました。



1年間いろいろな
イベントを実施



さまざまな場
面で利用され
ている太陽光
発電



生ごみを減らそう!
いろいろな人にアピール



つなぐ・つながる

このコーナーでは、長野市内で環境活動をしている団体、施設を紹介します。

太陽光と生ごみチームの

コラボイベント

太陽エネルギー普及・推進

チームリーダー 田中

★コラボのきっかけと目的

太陽エネルギー促進チームだけでなく、他のチームと協力してイベントを盛り上げたいと思っていたところ、ちょうど、生ごみ削減チームの安藤さん、佐藤さん、河西さんと会う機会があり、太陽エネルギー促進チームの「軽トラの発電で電動生ごみ処理機を動かす」という企画になりました。

★コラボイベントの様子

4月20日(土)八幡原史跡公園内で、コラボイベントを開催。スタッフは太陽エネルギー促進チーム7名と生ごみ削減チーム4名でした。

当日は曇りで肌寒く、太陽光発電は少ししか発電できませんでした。しかし、今回のコラボの目的だった電動生ごみ処理機は見事に動いてくれました。カセットCDも動き、音楽が流れ会場をにぎやかにしてくれました。

両チームメンバーと参加者に、太陽光のエネルギーの凄さを伝える「温暖化ミニセミナー」を開催し、盛り上がりました。特に若者男女3人と話はずみ、理解していただけたことは大きな成果でした。また、週刊長野のイベント紹介記事の効果もあり、太陽熱暖房に関心のある方が来て、たくさん質問をされ、お話しすることができました。参加者には、佐藤さん提供の景



品を差し上げて喜んでいただきました。イベントが終わってから、河西さん、堀内さんが当社さんの温風体験に来て、いろんな情報交換をしました。

このコラボは今後も是非やって行き、積極的に行動範囲を広め、太陽エネルギーのこともっと知っていただければと思います。

P会議の閉塞感を打破するためには、チーム間の連携を密にして、活動を活発にしていくしかないかもしれません！

事務局人事異動のお知らせ

4月1日の人事異動により、事務局員が変わりました。

事務局長は寺澤環境政策課長に変わり松本至朗課長、局員は、係長の横谷にかわり山岸信一が担当いたします。

松本至朗事務局長就任あいさつ

今年度は、「新アジェンダ21ながの」の策定、シンボル事業の実施、各プロジェクトチームでの事業など多くの事業が計画されています。皆さまとのパートナーシップの下、環境施策がさらに推進されるよう取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いたします。

パートナーシップ会議活動記録 (平成25年1~4月)

P会議活動

- ・ながの環境団体大集合 2/17
- ・中間監査 3/11
- ・信大地域環境演習説明会 4/22
- ・新年度予算編成等リーダー説明会 4/25
- ・新アジェンダ策定プロジェクト 4回 (1/15、2/19、3/8、4/9)
- ・理事会3回 (1/24、2/28、4/5)

チーム毎の活動

- ・光害対策 4回
- ・水環境保全P 4回
(例会、冬の観察会1回)
- ・生ごみ減量・再利用 5回
(例会、箱膳講座)
- ・食品トレイ・レジ袋P 10回
(例会、毎月5日ノーレジ袋デー、持参率調査)
- ・市民の森づくりP 7回
(例会、かんじき体験)
- ・太陽エネルギー普及促進P 6回
(例会、イベント参加)
- ・子ども環境学習支援P 3回
- ・スキー場跡地の自然復元P
- ・ウェザーステーションP

《25年度通常総会のお知らせ》

日時 6月23日(日) 10:00~11:30

会場 長野市ふれあい福祉センター

- ・平成24年度活動報告について
- ・平成25年度活動計画について
- ・新アジェンダ21ながの

について
他



《発行》

ながの環境パートナーシップ会議
市民、事業者、行政の協働
(パートナーシップ)により
環境保全に取り組んでいます。

《編集》

事務局

〒380-8512

長野市大字鶴賀緑町1613

長野市環境政策課内

TEL 026-224-5034

FAX 026-224-5108

E-mail:kankyo

@city.nagano.lg.jp

URL <http://nagano-ep.net/>